

教師ノート

日付	2011年 5月 1日
単元	モーセ・1
テーマ	困難の中でも神は必ず守ってくださる
タイトル	モーセの誕生
テキスト	出エジプト1:1-2:10
参照箇所	使徒7:17-22
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇46:1
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 題 3 課 9 、 小上 1 題 1 課 10 、 幼 2 題 1 課 1

□導入

例:ヨセフがエジプトに来たきつたけを覚えていますか?彼は兄たちに憎まれて、売り飛ばされたのです。そして、奴隷となり、監獄にまで入れられましたが、最後には、エジプトの総理大臣になりました。それらは、はじめにヨセフが夢をみたところから(そのもっと前から)、すべてヤコブの子孫を祝福し、全人類を救うという神さまの計画によるものでした。さて、その後、ヤコブの子孫たちはどうなったのでしょうか?

□ポイント1 エジプトの王はイスラエル人に過酷な労働を命じました(1:1-14)

ヨセフが総理大臣だった時代に、ヤコブの家族はイスラエルから、エジプトに引っ越してきました。出エジプト記のお話は、それから何百年か過ぎたところから始まります。ヤコブも、ヨセフも兄弟たちも、みんな死んでしまいました。その後、はじめは約70人だったヤコブの子孫は、非常に多く増えていました。神は約束どおり、ヤコブの子孫であるイスラエル人を祝福してくださったのです。イスラエル人は体も丈夫で、元気な赤ちゃんがたくさん生まれました。しかし、エジプトの王は、イスラエル人を苦しめました。新しい王は、ヨセフが総理大臣となって、エジプト人を救う大活躍をしたことを知らないで、イスラエル人を大切に扱う気持ちがなかったのです。それに、王は、もし外国と戦争になったとき、数も多く・強いイスラエル人が、敵側と組んでエジプトにはむかうことを恐れていました。そこで王は、イスラエル人に、重く苦しい労働をさせました。それは、イスラエル人を、弱くおとなしくさせて、人数が増えないようにするためと、エジプトから逃げられないようにするためでした。焼けるような日光が照りつけるエジプトで、イスラエル人は強制的に、過酷な労働をさせられ、厳しく監視されました。しかし、いくら苦しめても、彼らはますます増え広がったので、エジプトの人々はイスラエルの民を恐れました。それで王は彼らに、いっそう過酷な労働を課すようになりました。

☞この頃エジプトには男性だけで60万近くのイスラエル人がいたと考えられます(女性と子どもを除く)→出エジプト12:37、民数記1:46など参照。

☞労働=ナイル川から土を運び、それをこねて、型にはめてレンガを焼き、できた重いレンガをまた運んで積み上げて建物を作りました。また、畑での耕作はもちろん、川から田畑に水を引く用水を掘る工事や、運河をつくる工事もしたと考えられています。灼熱のエジプトでは、非常に過酷な労働だったでしょう。

□ポイント2 助産婦たちは王の命令にそむきました(1:15-22)

さらに王は、イスラエル人の2人の助産婦たちに、恐ろしい命令を出しました。「イスラエルの母親が出産するとき、もしも男の子なら、ただちに殺してしまえ!女の子なら、生かしておくのだ。」ところが、助産婦たちは神を信じていたので、エジプトの王が命じたとおりに従わず、男の子が生まれても、殺さないで生かしました。王に罰せられることを恐れず、神に喜ばれることの方を選んだのです。やがて、そのことがパロにバレてしまいましたが、彼女らは、「イスラエルの女性は健康で力があるので、助産婦が

助ける前に赤ちゃんを産んでしまいます。だから殺そうと思っても、間に合わないのです」と言いました。神は助産婦たちをパロから守り、彼女らの家族を祝福してくださいました。さらにイスラエルの民は増え、非常に強くなりました。パロは(怒って)次の作戦を考えました。そして恐ろしいことに、「男の赤ちゃんが生まれたら、ナイル川に投げ捨てて殺せ！」という命令を出しました。

☞助産婦…赤ちゃんを産むお母さんを助けてくれる女の人。当時は石でできた産み台の上で分娩したようです。助産婦が2人しかいなかったとは考えにくいので、ここに出てくるのは助産婦の責任者の立場の2人かもしれません。彼女らは、イスラエル人を守るために、パロにウソを言いました。神は、彼女らのウソを祝福されたのではなく、信仰を祝福されました。彼女らはイスラエルの子孫を守るという神の御心を行なったのです。パロに罰せられることを恐れず、命がけで神を第一とした信仰を喜ばれたのです。きっと助産婦たちは、ウソを悔い改める祈りをしたことでしょう。(参照:「新聖書注解1」いのちのことば社)

☞ヘブル人＝イスラエル人のこと。エジプト人が、自分たちと区別(差別)して使った呼び名。

□ポイント3 モーセはエジプトの王女の息子として育つことになりました(2:1-10)

その頃、ひとりのイスラエル人の男の赤ちゃんが生まれました。こんなカワイイ赤ちゃんを川に捨てることなんてできない。」そう思った両親は、3ヶ月の間、隠れてその子を育てました。しかし、見つかったら処刑されてしまいます。そこで、カゴを水が入らないように工夫して、その中に赤ちゃんを入れ、ナイル川の岸の葦の茂みの中に置きました。お姉さん(ミリヤム)は、赤ちゃんのことが心配で、遠くに隠れてどうなるか見守っていました。するとそこへ、パロの娘(王女)が水浴びをしにやってきました。王女はカゴを見つけると、侍女に取って来させました。あけてみると、中でヘブル人の男の子が泣いていました。王女はそれを見て、かわいそうに思いました。すかさずミリヤムが出て行って、「乳を飲ませる人が必要ではありませんか？その子の世話をするよいヘブル人を知っていますが、呼んで来ましょうか？」と言いました。「お願いするわ」王女にそう言われたミリヤムは、男の子の本当のお母さんを連れてきました。もちろん王女は、何も知りません。王女はその母親に「この赤ちゃんを、大切に育てておくれ。その分お給料をあげましょう。」と言って、男の子の世話を任せました。男の子は成長し、王女の息子として王室で暮らすようになりました。王女は男の子を「(水から)引き出す」という言葉から、「モーセ」と名付けました。

□結論 モーセは神さまに守られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

本来なら、モーセは、生まれてすぐ殺されるはずでした。さらに王女に拾われたとき、すぐにナイル川に捨てられてもおかしくありませんでした。それなのに、実の母親が、しかも賃金をもらってそだてることができるようになりました。こうして、モーセは、母親と一緒に暮らせる上、安全で安定した暮らしが保障されたのです。この間に、両親からイスラエルの神について習うことができました。それだけではありません。モーセは将来、イスラエルの人々を助け出す指導者に選ばれます。神さまはその準備として、モーセに、宮廷で最高の教育を受けることができるようにしてくださったのです。なんてスバラシイ方法でしょう！最悪の事態から一転、思いもよらない最高の状況が与えられました。このように、神さまは、私たちがどうすることもできないような困難にあっても、不思議な力で守ってくださいます。そして、私たちが思うよりはるかにすばらしいミラクルで、私たちを助けてくださいます。神さまは、いちばん良いことをしてくださいます。あなたにとって、完全に不利だと思うとき、万事休すというどうしようもない状態になるとき、絶対に勝つこないとと思うときはどんなときですか？神さまは絶対にあきらめたり、見捨てたりなさいません。みごとな神ワザで、あなたを守ってくださいます(助産婦たちの信仰も見習おう！)。勉強・スポーツ・習い事・霊的成長・伝道など生活のすべてにおいて、あなたもあきらめず、神さまを信頼し、祈り続けましょう。あなたを助ける方法は、神さまがもうすでに用意してくださっているよ！特に神さまは、人を罪から救う計画を着々と進めておられます。ぜったい教会になんて来ないと思う人のためにあきらめないで祈り続けましょう。